

暑い！暑い！！ だが、活力に満ちた夏がやってきた

真光寺川を清流にする会
世話人 山口拓郎

焼けつくような炎暑の日々が、もう40日近くも続いている。記録的な酷暑だそうだ。地球の何かが壊れてしまったのだろうか。人々は顔を合わせると挨拶代わりに暑い！暑い！！と言い交わしている。一方、今年はいつもの年より川面を飛ぶトンボの数が多いようだ。また水中に群れる魚群も多くみられるようになった。暑い！暑い！！ だが、活力に満ちた夏がやってきた。真光寺川の生物達はこの夏の熱気を謳歌しているようだ。

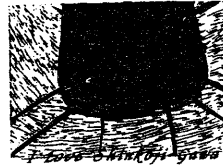
5月

5月21日(金)
待望の鶴三小の「真光寺川ウォーク」当日。吉風2号襲来。夜半、かなり激しい雨音を聞く。夜明け、雨はようやく止んだ。5時、権現橋に川の様子を見に行く。濁流が渦巻きながら流れている。7時、鶴三小から中止の連絡が入る。

5月25日(火)
快晴。鶴三小の「真光寺川ウォーク」の振替日。「清流にする会」は設定された6ポイントの内4ポイントを担当することになっている。それぞれに3名ずつ張り付く。8時、Dポイント：下堰親水で田島、笠井さん等と準備にかかる。9時になると全校320名の児童が1班6名編成で次々訪れ息つく暇もない。水鉄砲・笹舟・魚取り、下堰は賑やかな歓声に包まれる。Eポイント：いこい会館でも中村、山岡、二田さんが「エコ・タワシ作り」の指導に忙しい。アツという間の3時間だった。残念ながら半日で打ち切られたが子ども達は真光寺川ウォークを満喫してくれたようだ。後日、大原校長から礼状が届いた。「子ども達にとって、地域の自然に触れ、川など自然の奥深さを知るきっかけになったことでしょうか。鶴川の良さを、地域の方から地域の方や保護者へ、保護者から保護者へ、子どもから子どもへと広がっていくことを願っています」新しいコミュニティの創造、小さいが記念すべき一歩となったように思う。

6月

6月6日(日)
みずとみどり研究会が主催する「身近な水環境の全国一斉調査」が実施された。中村さんのお勧めでエコネット町田でも4河川12ヶ所で参加することになった。真光寺川でも3ヶ所実施した。当日、真光寺川3ヶ所は笠井、中村、山岡さんをお願いして鶴見川の精進場橋と下川戸橋を担当した。生憎、朝から大降りの雨となった。お天気ならば何でもない作業であろう。然し、傘を片手の作業は難渋を極めた。マニュアル通りCODのバックテストを3度ずつ繰り返す。2時間余りの作業だったが下着までずぶ濡れになる。



6月11日(金)
アサヒタウンズの藤井記者が取材に見える。以前、藤の台団地にお住いになっていたそう、土地勘があり話しやすい。下堰親水に案内する。

6月13日(日) 6月度清掃日
夜明けに激しい雨、幸い朝方止む。三輪の石原さんが新たに参加される。過日ボランティアセンターで行われた説明会の勧誘に応じ参加して下さった方である。やや増水しており作業はやりにくい。終わって反省会、「真光寺川まつり」のことが中心テーマとなる。

6月17日(木)
細菌調査のための水サンプル採集。8時にスタート、川下から上流まで4ヶ所で採集する。「EM菌」投入の効果だろうか。「せせらぎの小径」源流の辺り水の透明度が増している。11時に終了。

6月18日(金)
鶴四小からヤゴ救出作戦の連絡がある。前日、子ども達がプールから千数百匹のヤゴを救出したそうだ。山本、高橋さんが子ども達と一緒に広袴公園まで運び池に放す。トンボに成長し群れをなして飛ぶ日を想像すると楽しい。

7月

7月 9日(金)
鶴三小地域交流会
町内会、老人会、PTA、市民団体等地域の各種団体が集まる。5月に実施された「真光寺川ウォーク」を契機に小学校が地域のセンターの役割を果たしつつある。歓迎すべきことだ。終了後、横山先生から「真光寺まつり」の行事について提案がある。「木ぎれでフネ作り、レースをする」面白そう。高橋さんと工作の先生を交えて打ち合わせる。材料の「木ぎれ」は先生方が製材所から廃材を入手、加工して下さることになる。

7月11日(日) 7月度清掃日
参議院議員の投票を終え開戸親水へ。途中、いこい会館へ立ち寄り「まつり」の

横断幕をチェックする。真夏の太陽が容赦ない。日照続きで透明度を増し、魚群を多く目にするようになる。作業を終えていこい会館で「まつり」の打合わせ。大川、平野先生も出席下さる。水槽、網等機材の貸し出し、魚・鳥の絵画の出品等全面的に協力頂けることになる。ただ、学校では「まつり」の前日まで林間学校の行事があるそうだ。真光寺町の池田さんがメダカを水槽に入れて持参して下さい。このことにはこんな経緯があった。

池田さんは1年程前、町田の店でメダカートツガイを求められた。水槽で大切に飼育している内にどんどん繁殖し200匹になってしまった。飼育の限度を超したので真光寺川へ放流していいでしょうか、と云う問合わせの電話があった。真光寺川は水流が急でメダカが住める環境ではない。色々お話ししている内に「まつり」のことに話が及び、「いっそのこと当日希望者に分けてあげたら」と云うことになった。池田さんもその方がうれしいとおっしゃる。皆も行事として取り上げることに賛成だった。4-5匹ずつ希望する子ども達に分けてあげる。その際わたす「メダカ飼育の手引き」は山岡さんに制作して下さいになる。今年のシンボルマーク、ナマズを象ったTシャツも披露され「まつり」気分が次第に盛り上がってくる。

7月17日(土)
高橋、山本さんの車で和光鶴小へ水槽を借りに向う。大川先生は21-23日の間、奥多摩で林間学校、帰りは23日遅くなるとのこと。取りあえず家の車庫に保管。山本さんの案内でせせらぎの小径の源流へ。アオコが消えている。EM団子の効果か。

7月22日(木)
細菌調査の水サンプル採集。途中、水はきれいでも魚が群れているのが観察される。7時スタート、10時終了。

7月23日(金)
いよいよ「まつり」の前日、16時に集合、いこい会館に水槽を設置し水をはる。水鉄砲とその標的も運び込まれる。下堰周辺のゴミ拾い、そして草刈り。

真光寺川まつり2004



鶴二小の田村教頭をお願いしてナマズは、当日、朝、借りに伺うことになる。

7月24日(日)真光寺川まつり
美しい朝焼けで夜が明けた。曇一つない絶好のまつり日和だ。
スタッフは7時に集合、準備にかかる。そろいのナマズのTシャツが漂々しい。横断幕を張る者、室内の展示にかかる者、ジュースを冷やす者、目の回るような忙しさだ。

最も懸念されたのは水族館用の魚の捕獲だった。大川先生や宮川さんが投網で奮闘。オイカワ、カマツガ、タモロコ等が確保できる。鶴二小のナマズも無事到着。期待通り親子づれが続々集まってくる。スタンバイOK!10時定刻にスタート。EM機構のオーストリア人のお嬢さんにも挨拶してもらい画際色豊かなオープニングとなる。ウォータラリーが元気に出発していく。下堰観水は華やかな色とりどり歓声に包まれる。田村教頭は川に入り魚取りの指導して下さる。その甲斐あり続々獲物が捕獲される。木片で舟作りに夢中になる者、やがて横山・平野先生が審判でレースが始まる。笹舟・水鉄砲・落書き・竹ポックリ等。特に水鉄砲は性能がいい。ねらい打ちされて悲鳴が飛び交う。

12時、和光鶴二小のお父さん、お母さん方16人による勇壮な和太鼓が始まる。最後に大ナマズは「真太郎」2匹の雄は「光君」「寺ちゃん」と名付けられ子ども達の歓声と轟く和太鼓に送られて元気に古巣の川へ帰って行った。いこい会館もにぎやかだった。水族館ではオイカワの婚姻色が鮮やか。メダカの配布は子ども達の行列ができる。2台の顕微鏡を駆使した松前さんの細菌検査。「まつり」がアカデミックになる。室内では子ども達の版画や絵の作品展示。「エコ・タワシ」とジュズダマのお手玉作りもお母さん方に人気が高かった。

14時、私達にとってビックイベント「真光寺川まつり2004」は盛況裡に終了した。

後片づけも早々に賑やかな反省会になる。嬉しいことが多くあった

- ・子ども達の数が増えたこと
- ・心配した魚取りはうまくいったこと
- ・メダカ目当ての子ども達が湧出したこと

- ・フネののレースでは賞品の「ガリガリ君」の評判がよかったこと
- ・EM菌の解説は大原校長も「勉強になりました」とおっしゃっていたこと
- ・先生方が今まで以上に積極的にバックアップして下さったこと
- ・校長先生、教頭先生、清水課長、沖課長補佐等学校・行政の方も多く見えたこと
- ・魚の権威、内水面試験場の勝呂さんも見えたこと
- ・「里親制度」を示唆して下さった辰濃和男さんがお忙しい中、激励にお見え頂いたこと
- ・峰王・鶴ヶ島の田中さんが遠路遙々駆け付けて下さったこと。等々
- ・一方反省点もいくつかあった
- ・開催の時期が果たして適当だったか
- ・ウォータラリーの行程がやや長すぎ途中脱落者が多かったこと
- ・フネのレースは流れが緩やか過ぎたこと
- ・「落書き」が思ったより少なかったこと
- ・「下堰」と「いこい会館」の距離があり行事が分散し勝ちであったこと
- ・行事の時間と場所を明示した案内板がほしかったこと
- ・地域に対する一層の気配りが必要なこと等々

暑い、然し充実した一日だった。先ずは天候に感謝したい。そして献身的努力を惜しまなかった多くの方々に。真光寺川は今や地域の輪をつくるシンボリック存在になりつつある。そんな想いが強くなってきた。

